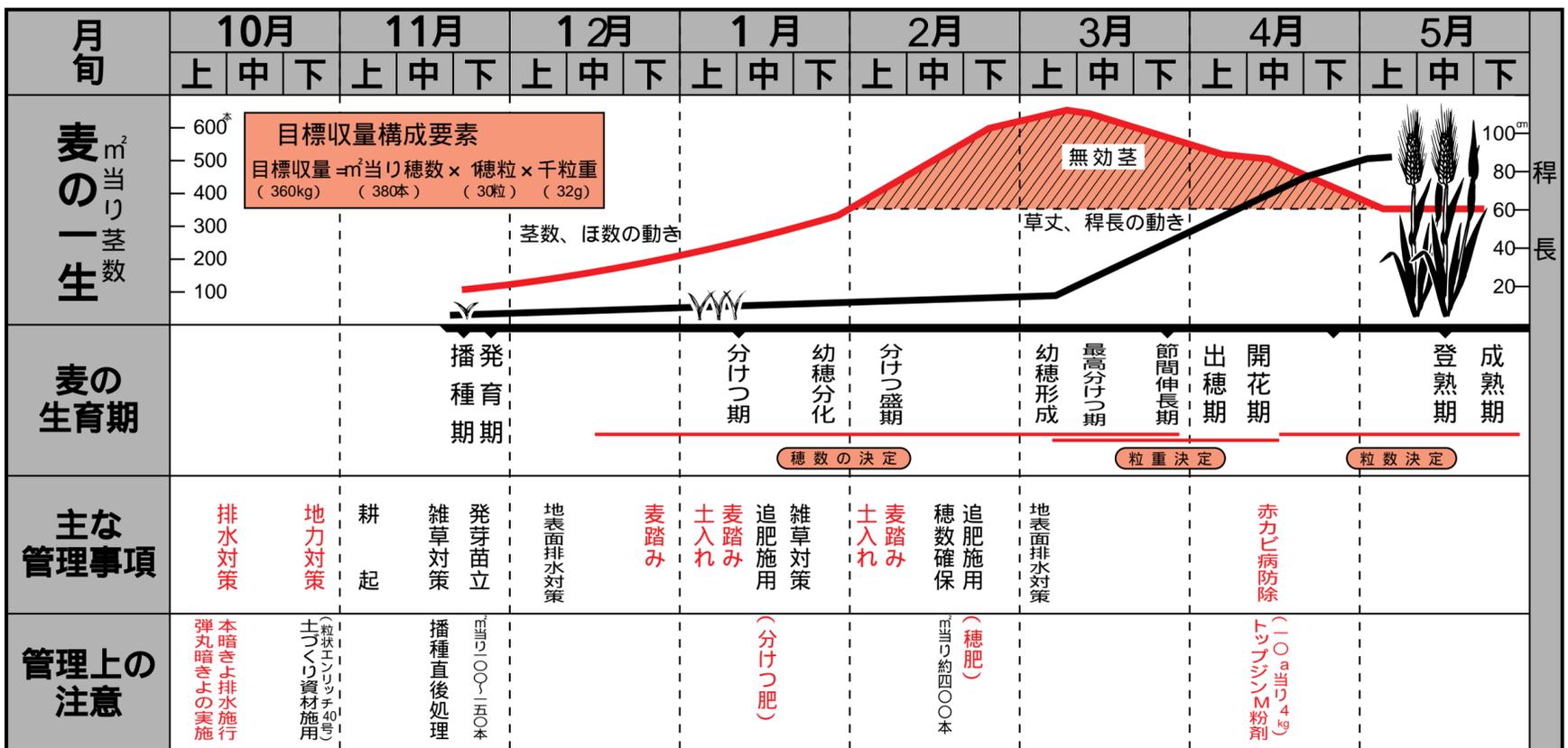


平成 15年産麦作こよみ



麦の民間流通に伴い、市場評価の高い銘柄を生産しよう

赤カビ病徹底防除で、信頼される産地をつくろう。

麦作り 運動

優良種子への更新実施
 麦踏み3回、土入れ2回
 タンパク含量向上の追肥
 DON検査合格(赤カビ病防除)

栽培基準

- 品種 チクゴイズミ・シロガネコムギ
- 播種量 小麦 6kg~ 8kg
- 播種適期 11月20日~ 12月5日 (20日以前の早播き厳禁)
- 種子消毒

種子消毒薬	使用法
・ベンレート水和剤	乾燥麦種子量の0.5%を種子に粉衣する。
・キノンドー水和剤	
- 弾丸暗渠排水を実施し表面排水を図ろう。深耕及び土づくりを図ろう。
- 施肥設計基準

肥料名	元肥	追肥		成分量		
		1月中旬	2月下旬	N	P	K
粒状エンリッチ40号 又は 珪酸加里特号	120 kg					
高度化成284号 又はBB284号	40			48	72	56
燐加安454号 又は NKC3号		20	15	49	175	49
		20	10	54		48
		15	10	97	895	105
計	40					
		20	10	102	72	104

(注意事項)
 土づくり資材として粒状エンリッチ40号又は珪酸加里特号を必ず施用して下さい。
 大豆後作麦については、元肥を20kgに減肥して下さい。
 タンパク含量向上の為、2月下旬に追肥(穂肥)ができる様な麦を作りましょう。

7 除草剤の使い方

使用時期	使用農薬名	10a当り使用量	備考
播種直後 (雑草発生前)	クリアターン細粒剤F クリアターン乳剤	4~5kg 水100ℓに 500cc	スズメノテッポウ、ナズナ、タチスズメノカタビラ、カズノコグサ
	トレファノサイド粒剤 トレファノサイド乳剤	4~5kg 水100ℓに 200~300cc	スズメノテッポウ、スズメノカタビラ ノミノフスマ、ハコベ
播種直後 ~麦3葉期	ハーモニー細粒剤F	4~5kg	スズメノテッポウ、ノミノフスマ オランダミミナグサ、ナズナ
1月下旬 (麦3葉期~節間伸長期前)	ハーモニー75DF水和剤	水100ℓに 7~10g	スズメノテッポウ、ヤエムグラ ノミノフスマ、ナズナ
1月中旬~2月上旬 (穂ばらみ期まで)	アクチノール乳剤	水100ℓに 150~200cc	ヤエムグラ、その他の 一年生広葉雑草

使用上の注意

- クリアターン細粒剤F・乳剤は、広範囲の雑草に高い効果があり、長く抑えます。
- アクチノール乳剤は、ヤエムグラの2~4葉期の生育初期に散布する。イネ科雑草に効果がないので播種直後処理剤と体系処理が必要。
- ハーモニー細粒剤にはヤエムグラに対し抑制効果はありますが枯死するまでは至りません。
- ハーモニー75DF水和剤は、麦の3~4葉期から節間伸長期前まで。但し、スズメノテッポウの3~4葉期に散布する。単用(一発)処理で効果があり、播種直後処理はいりません。
- ほ場周辺の作物に飛散する恐れがある時は散布しないで下さい。動噴、タンク等は使用後すみやかに消石灰を用いて洗浄して下さい。

8.管理作業

- 土入れ鎮圧 3月上旬までに3回おこなう。
圃場表面排水を図る
- 溝さらい 湿害をさけるため、3月下旬迄におわること。
- 赤かび病防除** 開花期にトップジンM粉剤を10a当り4kg散布。

9 適期刈取

適期刈取は出穂後50日頃(成熟期の5日後) 早刈りは損傷粒の発生原因となるので、立毛水分30%以下で刈取る。

10 乾燥

通風後、40℃で乾燥し、仕上水分12%とする。

11 調整

粒選機(ライスグレーダー、2.2mm目)を使用し、屑麦を取り除き、粒揃いを良くする。仕上げ後は水分が戻らないよう貯蔵に注意する。